

台日アパートメントのプランニング比較

八代研究室
01412156 劉 牧函

1. はじめに

近年日本では、留学やビジネス等を目的として来日する外国人が増加している。彼らが来日して家選びをする際、短期在留者の場合は選り好みせずとも異文化の珍しさもあり、なんとか我慢して過ごすことができる。しかし長期在留者の場合は、馴れない環境によって無意識に心身に負荷がかかり、ホームシックになることがある。私は留学のために約6年間日本で生活しているが、日本のアパートメントの窮屈さには未だに馴染むことができず故郷の台湾の住宅が恋しくなるときがある。本研究では、台湾と日本のアパートメントの間取り（プランニング）を比較することによって、台日のアパートメントの室構成の違いについて明らかにすることを目的とする。

2. 分析対象

図1と図2は台湾と日本の典型的なアパートメントの事例であり、平面図の網かけ部分と内部写真は両者とも居間の様子を示しているが、総面積は台湾の方が小さいにもかかわらず、空間としては大きく感じる。図3は、図1、図2を含め、本研究で扱った台日のアパートメントであり、新聞やインターネットから得た面積 $10\text{ m}^2\sim 120\text{ m}^2$ の各々15件の分析対象一覧である。上段が台湾の事例、下段が日本の事例で、面積順に並べ、中段にそれぞれの室数を台湾を●、日本を○で示した。図3から、 60 m^2 以上の事例では台湾より日本の方が室数が多い傾向が読み取れる。

3. 室構成の比較

図4は、室構成の比較として、各室の面積を玄関から順番に表したものである。この図から室のレイアウトの順序は台日で異なることがわかる。すなわち、台湾は玄関→居間(L、DK、LDK)→廊下またトイレ→寝室であるのに対し、日本は玄関→廊下→寝室→居間となる傾向がある。

3.1 玄関と廊下

日本と比較して台湾は玄関の無い家の方が多い。台湾では靴を家の外で脱いで靴箱（もしくは外の通路）に置いて家に入るパターンと、家の中で脱いで出入口付近に置くパターンがある。台湾では居室の一部に玄関があるので、家に入って家族の顔をすぐ見れるので、日本に比べ家庭的な雰囲気になるといえる。

私が日本のアパートメントが窮屈だと感じるひとつの理由は玄関の後に廊下があり、この廊下の面積分、リビングやキッチン、ダイニングが狭くなっているためと考えられる。すなわち、日本では玄関から入ってすぐ廊下があり後続の寝室や居間のプライバシーは保たれているが、台湾ではこの廊下部分が広い居間で、後続の諸室への分配空間になっている。

3.2 居間(L、DK、LDK)

玄関の項目で述べた通り、日本のリビングは狭く、同程度の空間面積の事例同士と比較しても明らかだ。例えば、台湾のT6： 48.0 m^2 の部屋のリビング面積は 20.6 m^2 、一方、日本のJ5： 48.4 m^2 の部屋のリビング面積は 8.5 m^2 であり、台湾の方が倍以上の大きさがあることがわかる。

3.3 寝室

台湾のT15： 119.0 m^2 は2室で 60.7 m^2 (30.3 m^2 /室)であるのに対し、日本のJ15： 120.0 m^2 は3室で 40.0 m^2 (13 m^2 /室)と、1室当たりの面積は台湾の方が2倍以上大きくなっている。その理由として、台湾では主寝室に必ずトイレ、浴室が設置されているためと考える。なお、台湾では一般にトイレと浴室がセットで一室となるが、日本では別々の部屋になっていることが多い。

4. まとめ

台日で室構成の順序が異なることが明らかになった。すなわち台湾では玄関→居間→廊下→寝室のパターンが多いが、日本は玄関→廊下→寝室→居間で、各室の面積が小さくなる傾向があることがわかった。



図1 台湾の事例

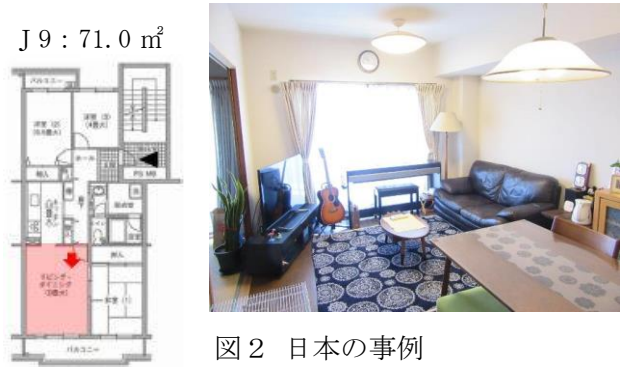


図2 日本の事例

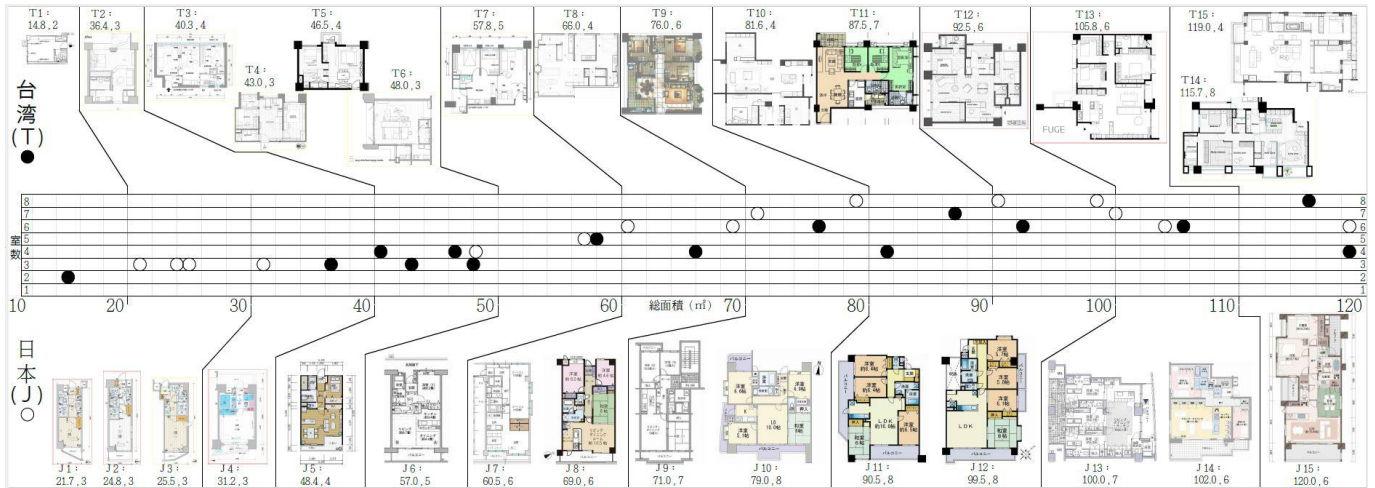


図3 分析対象一覧

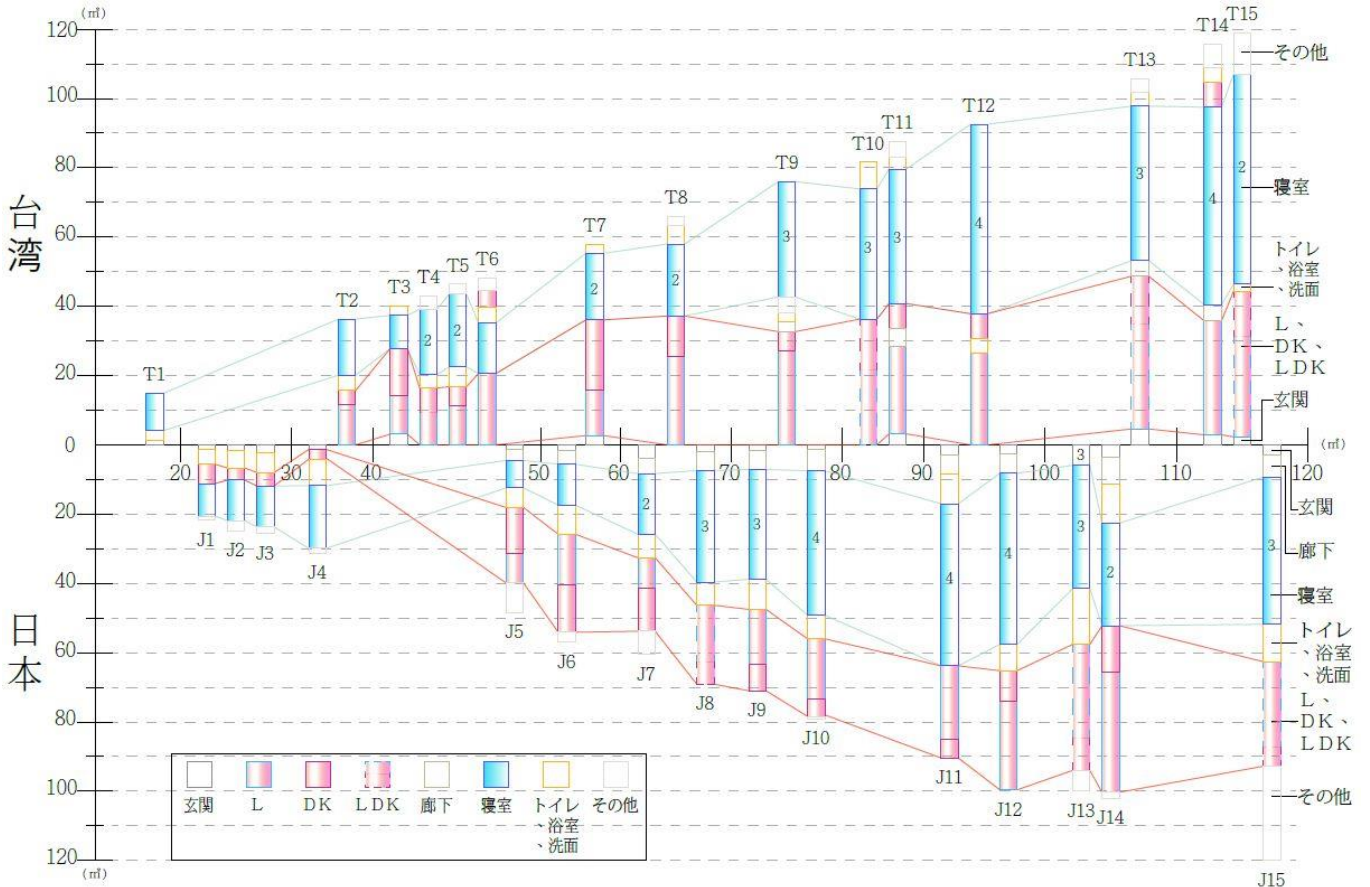


図4 台日アパートメントの室構成の比較